

RUNG ARUN PROJECT とは

Rung Arun (ルンア룬)はタイ語で「暁」。ルンア룬・プロジェクト「暁の家」は中野穂積さんが代表をつとめるタイ北部の山地民支援組織です。「深い夜の闇の底から立ち昇る暁の光 さあ歩き出そう 山の頂から新しい世界を見渡そう」という願いを込めて名付けられました。(ルンア룬プロジェクトホームページより)

1987年に学校に通うことができないタイ北部の山岳民族の子供たちのために、現地の人々の協力も得てタイのチェンライ県にリス生徒寮を建設。中野さんは寮母として子供たちと共同生活を始めます。1995年には第2の寮となる「暁の家」を建設し、以来30年にわたって多くの子供たちが教育を受け、暁の家から巣立っていきました。2015年、第18期生を最後に生徒寮としての活動を終えましたが、働きながらでないと就学できない家庭の青年を受入れるなど、職業訓練センターとしての活動を開始。2011年からは山間地でコーヒーの有機栽培を始め、山の人々が持続可能な生活を送ることができるように焼き畑や化学肥料、農薬に頼らない農業の支援にも尽力されています。

国際教養学科のタイ研修では、学生が「暁の家」中野さんのもとへ行き、実際に活動に参加させてもらい、社会活動の実践について多くのことを学ぶことができました。学生の体験をぜひご覧ください。





暁の家
(RUNG ARUN
PROJECT)
訪問研修レポート
2019

こんな活動をしました！



暁の家に到着して、現地の方々と交流会。
伝言ゲームで打ち解けた後、伝統的な踊りを披露していただきました。カラフルな民族衣装がきれい！



私たちは浴衣で盆踊りを披露。言葉が通じなくてもみんなが笑顔になり楽しい時間を過ごすことができました。

こんな活動をしました！



暁の家の図書館で、ルンアルンプロジェクトについての学習会を開いていただきました。プロジェクトを進めるにあたって中野さんが大切にしていること、山の人々への想い、暁の家の未来のこと…たくさんお話を聞かせていただき、私たちのプロジェクトへの想いも強まりました。



暁の家で育てている作物のツアー。野菜やコーヒーを作る過程の説明を聞きました。また、コーヒーの焙煎機や各農家から送られてきたコーヒーを実際に見せてもらいました。

こんな活動をしました！



作物ツアーのあとはコーヒー畑の見学。コーヒーの木は細くアップダウンの激しい山道の先で栽培されていました。また、急斜面のため、害虫駆除や収穫も大変です。無農薬で栽培されているコーヒー豆は農家の方々が1本1本にどれだけの労力をかけているのだろうと考えると、どうしてルンアルンのコーヒーが美味しいのか分かった気がしました。



コーヒー畑での1枚。

こんな活動をしました！



メーコック財団では民族衣装をまとった子供たちが踊りを披露してくれました。

＊メーコック財団

麻薬やエイズ、離婚などで保護者のいない子供たちを受け入れている。チェンライに拠点を置く。

こんな活動をしました！



車で険しい山道を揺れながら3時間半、山奥の村にある幼児教育施設「太陽の家」で子供たちと交流。太陽の家のナレ先生とアークどこでも本読み隊の堀内さんから貴重なお話を聞きました。

*太陽の家

アーク本読み隊が支援するアカ族子供たちのための就学前学校。

*アーク本読み隊

地域図書館（チェンマイ県）や移動図書館を運営し、タイ農村部にいる子供たちに本を届ける活動をしているNPO。堀内佳美さんにより2010年に設立された。

こんなことも…



チェンマイ大学の皆さんと交流したり…



お寺の見学をしたり…

こんなことも…



象の背中に乗ったり…



もちろん美味しいごはんも
いただきました！



学生の事後レポートも「深めて！
南山GLS」>「学生の活躍」>
「グループ」に掲載しています。
ぜひご覧ください。
在学生の方は、より詳しい研修
報告書を国際教養学部合同研
究室に置いています。ぜひご覧
ください。